

第3学年3組女子 保健体育科学習指導案

指導者 谷口 真由

- 1 研究主題 健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する保健体育学習の創造
—なかまとの関わりを通して学び合い高め合う生徒を目指して—

2 題 材 球技「ゴール型（バスケットボール）」

3 題材について

- (1) バスケットボールは相対する2チームが、コート内を走り回ってドリブル、パスなどでボールを進め、一定の時間内に相手ゴールにシュートして得点を競い合うスピード感あふれるスポーツである。多様な戦術を生かし、ボールを進め、ゴール前の攻防を展開してシュートしたり、相手のシュートを防いだりして、勝敗を争うところ楽しさがある。しかし、攻防の展開が激しく、総合的な運動能力が要求される運動であり、能力の高い生徒がボールをコントロールすることが多くなると、攻防に参加できない生徒がでてくるなど、生徒全員が楽しむことができなくなる可能性もある。

また、練習したことがゲームの中で生かされたり、なかまと作戦に応じた技能で連携しゲームが展開できたりするようになると、より一層喜びや楽しさを味わうことができる。

- (2) 本学級は、運動が苦手得意にかかわらず、体育実技の授業に積極的に取り組む生徒が多い。グループでの話し合い活動については、一見活発に行っているように見えるが、8月に実施したアンケートによると、話し合い活動中に困ったことがあると答えた生徒が6割、困ったことはないと答えた生徒は4割いた。困ったことがないと答えた生徒の理由としては、「運動の得意な生徒が中心となって話し合いに参加しているから・話しやすいメンバーだから・みんなが意見を出し合っているから・お互いの話をよく聞いているから・自分の意見を言うとそれに反応してくれる人がいるから」などがあつた。困ったことがあると答えた2割が「発言しにくい人間関係」、2割の生徒が「何について話せばいいのかよく分からない」、6割の生徒が「意見を出したいが思いつかない」と答えている。

第2学年時にバスケットボールを既習しており、基本的なシュートやパスアンドランプレイについては学習し、ゲーム形式の中で生かすことはできるようになった。また8割の生徒がバスケットボールが好きだと答えており、シュートが決まったり、カットできたとき、パスランプレイが成功したりしたときなどに楽しいと感じると答えた。一方、否定的な回答の中には、動き方がよく分からない、ミスすると迷惑かもしれないなど消極的な生徒もいる。

- (3) 本題材では、なかまと連携してゴール前の空間を使ったり、空間を作り出したりして攻防を展開できるよう指導したい。そのためには、ボールを持っている人の視野、ボールを持っていない人のマークマンを振り切る動き、ゴール前の空間を使うことの重要性に気づかせることが大切になる。そこで、試合分析カードやタブレット端末を使用して、自チームの動きやディフェンスの反応を確認し、気づいたことを個人の学習カードに記入させることで、次時につながる課題発見の手立てとする。話し合い活動については、試合分析カードやタブレット端末を用いて、自チームのゲームを分析することで話し合いに必要な材料を具体化したり、生徒へのキーワード提示や話し合いでの役割を明示したりするなどして活性化を図る。

4 学習目標

- (1) ボールを持っていない生徒が、空間を有効に使ったり、空間を作ったりする動きができる。
(2) 自分やチームの課題に気づき、情報に基づき、解決に向けての動きを考え、伝え合うことができる。
(3) 話し合い活動にもゲームにも自主的に取り組み、フェアプレイを大切にすることができる。

5 学習指導計画（計12時間）

- (1) オリエンテーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
(2) 基本練習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間
(3) オフボールマンの動き方・3対3（オールコート）・・・・ 4時間
(4) 4対4・5対5のゲーム（オールコート）・・・・・・ 4時間 本時（2／4）
(5) ミニ大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

6 本時の学習

(1) 目 標

- ① 攻めるための空間を作り出し、それを生かすことができる。
- ② 積極的に意見を出し合い、作戦を立てることができる。

(2) 準備物 バスケットボール、ゼッケン、学習カード（個人）、分析記録カード（チーム用）
タブレット端末、筆記用具、水筒

(3) 学習指導過程

学習活動	教師の指導及び支援	学習評価
1 集合・整列・挨拶をする。	・生徒の様子を確認し、見学者がいれば活動について指示する。	
2 準備運動・チーム練習をする。 ・ドリブル鬼ごっこ ・ボールサイドカット ・ブラインドカット ・パスランプレイ	・ケガの防止のために、特に指や足首のストレッチをするように助言する。 ・オフボールマンの動きがシュートにつながるように、走るコースやスピードの強弱、タイミングに気をつけるように助言する。	
3 本時の学習内容・学習課題を知る。		
なかまと連携してゴール前の空間を使ったり、相手をかわしたりして、攻防を展開しよう。		
4 前時のチームの課題を個人の学習カードやゲーム分析カードを生かし、チームの目標を確認する。	・特にオフボールマンの動きについて、タイミングやゴール付近のスペースを生かすために、どう動けばいいのか、具体的な動きの確認ができるように助言する。	【技能】 A マークを外して、フリーになりボールをつなぐことができる。 B 動いてボールをもらうことができる。 (観察)
5 ゲームをする。	・各チームの目標を意識して、ゲームができるように、今日の目標となる動きに近い動きをしている生徒を称賛し、タイミングが合えば成功する動きなど見つけて、ゲーム中に助言する。	
6 各チームで話し合いをする。	・ <u>試合分析カードやタブレットを使い、具体的な情報を基に話し合いができるように、助言する。</u> ・ <u>本時の目標を意識することが、得点につながることを改めて確認し、目標の中のキーワードを再確認するなど、話し合いの内容がずれないように助言する。</u>	
7 ゲームをする。	・各チームでの話し合いによりでてきた課題を意識してゲームができるように助言する。	
・本時のまとめをする。	・個人やチームの学習カードを記入し、成功したことや課題について発表し、全体で共有する。	